

## 新人看護職員実地指導者研修を開催しています。

看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部改正により、新人看護職員研修の努力義務化が制定されました。それを受け新人看護職員研修を円滑に実施・運営する能力を養う目的で、毎年5回シリーズで研修を開催している。

今年度も第1回目は水田 真由美先生（和歌山県立医科大学保健看護学部 教授）、第2回目は鹿村 眞理子先生（和歌山県立医科大学保健看護学研究科 非常勤講師）の講義・グループワークを実施した。

講義では、組織の教育システム・教育に関する知識・新人看護師の現状、学習に関する基礎知識等があり、研修生は熱心に受けていた。

研修には、50名（看護師48名、准看護師1名、助産師1名）（臨床経験年数6～10年が24名、11～15年が10名）の参加があった。

### 《1回目 5月25日 講義風景》



講義とグループワークを行いながら、一人ひとりが自分の課題と向き合い「新人看護師の特徴」「今思う現状と課題」「指導者の役割」「今後どのように生かしていくか」等をまとめていった。

終了後のアンケートでは、内容の理解度・達成度・今後の活用度・今後の課題や方向性については100%の満足を得られていた。

そのほか、「2年目の看護師教育にも参考となる内容があり、その面でも活かしていきたい。」や「グループワークで他の病院の現場のことを知ることができてよかった。」「指導者としての役割が明確になった。」との感想もあった。

《2回目 6月15日 グループワークの様子》



新人看護職実地指導者研修第3回目は臨床心理士でシニアカウンセラーの坂田 真穂先生 に「新人看護職員へのメンタルサポート」の講義をしていただきました。

《第3回目 6月24日 講義風景》

自分はどのような世代に育ってきたかを知り、新人との世代間ギャップをまず知るための講義を聴いた後、研修生たちは「指導が難しい」と感じる新人・「指導が難しい」と感じる場面、指導者のストレスをグループでまとめて発表した。研修生は日頃感じている事を共有した。

生き生きと働き続けるためには、「自分の仕事を語る機会を持つこと」、「互いにねぎらうこと」が大切であるとの講義であった。





《グループワーク時の様子》

アンケートの結果から「自分のストレスと向きあえた」「指導者に対する精神的なフォローがないのでこの場ですっきりした」「大人の発達障害についてとても興味深かったです。“伝わらない”であきらめずに、伝え方（シンプル・具体的など）を変えて改めて関わりその人の良い部分を活かせる環境づくりをしていきたい」の感想があった。

～全研修終了後に、4回目5回目の研修の様子をお届けいたします。～